

# 平成17年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	特 6	学校名	茨城県立水戸飯富養護学校					課程	全日制			学校長名	小室 都 昭				
教頭名	高野 駿		半田 孝子					事務(室)			平根 満						
教職員数	教諭	7	2	養護教諭	2	常勤講師	2				非常勤講師	2	実習教諭,実習講師,実習助手	2	事務職員	4	技術職員等
	学部	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計クラス数	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
児童数	小学部	4	3	8	2	11	2	9	2	7	2	7	4	46	15	18	
生徒数	中学部	11	4	15	1	9	11							35	16	11	
	高等部	12	3	11	7	15	6							38	16	9	

## 2 目指す学校像

児童生徒個々の障害の状態及び特性に対応する適切な教育を行い、一人一人の能力や可能性の伸長を図り、自立と社会参加を目指して、社会生活に主体的に適応できる児童生徒を育成する。

## 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現 状 分 析	課 題
学習指導	・障害の重度・多様化に伴って、小中高の指導の一貫性や個別の指導計画の改善・検討の必要性が出され、保護者からも個別の指導計画の公表要望が出されている。	・個別の指導計画の公表をどのように進めたら良いか。 ・個別の教育支援計画の策定をどのように進めたら良いか。 ・研究授業体制をどのように進めたら良いか。
特別活動	・中・高等部の部活動に参加を希望する生徒が多くなっているが、中・高等部は自立通学者を除いていき保者同伴を義務づけているため、参加者が限られてくる。参加できない児童生徒の増加の傾向が伺われ、それが長期化している。	・部活動の担当者確保と知的障害者の余暇活動をどう進めたら良いか。 ・諸会議の持ち方をどのように調整したら良いか。
生徒指導	・家庭の事情や児童生徒の精神的な不安定・問題行動等のため、不登校の児童生徒の増加の傾向が伺われ、それが長期化している。	・居住地の関係諸機関との連携をどのように進めたら良いか。 ・カウンセリングマインドの研修をどのように進めたら良いか。
進路指導	・進路目標の設定や保護者の進路に対する取り組み意識に課題があり、進路開拓とともに個別移行支援計画を視野に入れた取り組みの必要性が大きくなっている。	・適正な進路指導をどのような時期からどのように進めたら良いか。 ・個別移行支援計画の策定をどのように進めたら良いか。

教育相談	・センター的機能に對する関係諸機関からの要望が大きくなる ・センター的機能に對する期待が大きい ・センター的機能に對する期待が大きい	・教育相談部の組織化と関係諸機関の連携をどのように進めたいか ・保護者の意識改革とボランティア養成をどのように進めるべきか
P T A 活動	・ボランティア公開講座、知的障害者に対するボランティア公開講座、知的障害者に対するボランティア公開講座	・保護者の意識改革とボランティア養成をどのように進めるべきか

#### 4 中期的目標

1	一人一人の障害の実態に応じた適切な個別の指導計画をもとに、個に応じた学習指導の効果的な推進に努める。
2	関係諸機関との連携を深め、個別の教育支援計画（個別移行支援計画を含む。）を作成し、地域社会における支援体制を推進する。
3	幼稚園、小学校、中学校、卒業生への教育相談を充実させ、地域におけるセンター的機能を推進する。
4	社会の要請に応じた専門性の向上を図るために、研究部や学習指導部が中心となって校内外の研修の充実に努める。
5	中学部、高等部の余暇活動の推進を図るため、スポーツや文化的活動の充実に努める。

#### 5 本年度の重点目標

重点目標	具体的目標	達成状況
1 個別の指導計画の活用	・通知票と一体化について推進 ・保護者による授業の評価（年5回）の継続と評価結果の公表 ・個別の指導計画の保護者への公表（継続）（プロフィール） ・個別の指導計画を踏まえた学習指導案の作成	
2 個別の教育支援計画等の活用	・教育支援計画策定推進委員会の機能の促進 ・個別の教育支援計画等実践に伴う連絡会の開催と外部評価（年2回）	
3 計画的な教育相談体制の推進	・関係教育委員会や福祉関係機関等との連携（教育相談ネットワーク） ・学校見学会の開催やHPでの相談体制のPRの推進 ・近隣の関係機関を集めての教育相談に関する公開講座等の開催	
4 専門研修の推進	・センター化機能の充実に伴う校務分掌組織の改善 ・特殊教育免許取得の推進・研修センターの希望研修講座等への参加の呼びかけ ・研究部を設置し、校内研究の推進と研修計画の充実に努める ・研究とも、課題意識を持つて初任研・5年次研・10年経 験者研に、取り組めるような雰囲気作りの推進 ・力ウンゼリソングや医療的ケアに関する研修会の開催	
5 余暇活動への校内支援体制の充実	・生涯学習センターや社会福祉協議会等と連携した生涯学習 体制の推進 ・資格取得講座等の検討 ・地域の種々の余暇活動への参加の推進	